

語用論における指示代名詞これ、それ、あれの分析

—自伝エッセイ『窓ぎわのトットちゃん』を通しての一考察—

概要

ジョセフィン

0742008



マラナタキリスト教大学

文学部

日本文学科

バンドン

2011

序論

さくま（2004、115）によると、「文の意味を扱う意味論に対して、発話の意味を扱う分野は語用論(*pragmatics*)と呼ばれます」と述べている。語用論で、直示とは、文脈との関係を説明するという意味である。

直示とは指示詞を使うことである。伊織（2000、2）によると、次のように述べている。

「指示詞には二つの使い方があります。一つは指すものが話の現場にある場合（現場指示）で、今一つは指すものが話の中に出てくる場合（文脈指示）です。」

そして、文脈指示には前方照応と後方照応という二つの用法がある。前方照応とは指すものが指示詞より先に現れる用法である。一方、後方照応とは指すものが指示詞より後から現れる用法である。

日常生活を描いた『窓ぎわのトットちゃん』における文脈指示としての指示代名詞これ、それ、あれの使い方を分析する。また、具体的にこのエッセイの中での指示代名詞これ、それ、あれが指すものを示していく。

本論

文脈指示としての指示代名詞これ、それ、あれの分析を次のように行った。

1. 今と違って、昔の電車は、外から開くように、ドアに取手がついていた。両手で、その取手を持って、右に引くと、ドアはすぐ開いた。トットちゃんは、ドキドキしながら、そーっと、首をつっこんで、中を見ていた。

「わあーい！！」

これなら、勉強しながら、いつも旅行をしてるみたいじゃない。

網棚もあるし、窓も全部、そのままだし、違うところは、運転手さんの席のところ黑板があるのと、電車の長い腰かけを、はずして、生徒用の机と腰かけが進行方向にむいて並んでいるのと、つり革がないところだけ。

(P. 50)

データ1は後方照応としての「これ」に当たる。指すものは、「網棚もあるし、窓も全部、そのままだし、違うところは、運転手さんのせきのところに黑板があるのと、電車の長い腰かけを、はずして、生徒用の机と腰かけが進行方向にむいて並んでいるのと、つり革がないところだけ」である。

話し手は知っていることだが、聞き手はそうではない場合は「これ」を使う。

2. 新しい学校の門をくぐる前に、トットちゃんママが、なぜ不安なのかを説明すると、それはトットちゃんが、小学校一年なのにかかわらず、すでに学校を退学になったからだった。一年生で！！

(P. 14)

データ 2 は前方照応としての「それ」に当たる。指すものは、「トットちゃんのパパが、なぜ不安なのかを説明する」である。

\話し手はよく知っているが、このエッセイを通してママの感情を指す場合は「それ」を使う。

3. (この前、病院にいる兵隊さんをお見舞いに行ったとき、看護婦さんは、注射なんか、してあげてたじゃない？あれは、ちょっと、むずかしそうだ...)

(P. 170)

データ 3 は前方照応としての「あれ」に当たる。指すものは、「看護婦さんは、注射なんか、してあげてたじゃない」である。

話し手と聞き手が知っていることを指す場合は「あれ」を使う。

結論

1. 自伝エッセイ『窓ぎわのトットちゃん』における指示代名詞これ、それ、あれの使い方をまとめると以下の通りである。

- 「これ」：前方照応とは指すものが「これ」より先に現れる用法である。後方照応とは指すものが「これ」より後から現れる用法である。話し手は知っていることだが、聞き手はそうではない場合は「これ」を使う。

- 「それ」：前方照応とは指すものが「それ」より先に現れる用法である。話し手は知っていることだが、聞き手はそうではない場合は「それ」を使う。そして、話し手と聞き手が知らないことを指す場合も「それ」を使う。
- 「あれ」：前方照応とは指すものが「あれ」より先に現れる用法である。話し手と聞き手が知っていることを指す場合は「あれ」を使う。

2. 自伝エッセイ『窓ぎわのトットちゃん』における指示代名詞これ、それ、あれが具体的に指すものは、以下の通りである。

- 「これ」はこと、場面、歌の名、競技の名、経験、理由などを指す。
- 「それ」は人物、もの、人の性格、感情などを指す。
- 「あれ」は「注射」を指す。

DAFTAR ISI

KATA PENGANTAR.....	i
DAFTAR ISI.....	v

Bab I Pendahuluan

1.1 Latar Belakang Masalah.....	1
1.2 Rumusan Masalah.....	11
1.3 Tujuan Masalah.....	11
1.4 Metode dan Teknik Penelitian.....	12
1.4.1 Metode Penelitian.....	12
1.4.2 Teknik Penelitian.....	12
1.5 Organisasi Penulisan.....	14

Bab II Kajian Teori

2.1 Pragmatik.....	15
2.1.1 Deiksis.....	17
2.1.1.1 Anafora.....	19
2.1.1.2 Katafora.....	21

2.2	Pronomina Demonstratif.....	22
2.2.1	<i>Kore</i>	26
2.2.2	<i>Sore</i>	29
2.2.3	<i>Are</i>	32
Bab III	Analisis Pronomina Demonstratif <i>Kore, Sore, Are</i> dalam Novel <i>Madogiwa no Totto-chan</i>	
3.1	<i>Kore</i>	36
3.2	<i>Sore</i>	59
3.3	<i>Are</i>	81
Bab IV	Kesimpulan.....	83
	SINOPSIS.....	vii
	DAFTAR PUSTAKA.....	xi
	LAMPIRAN DATA.....	xiii
	RIWAYAT HIDUP.....	xxv